

小規模単位の「コミュニティ力」 向上に向けて

大阪国際大学現代社会学部法律政策学科 田中 優 ゼミ

代表者・発表者:根岸 昂生

参加者:坂元 悦子、松田 達磨、森園 睦

テーマ設定の理由

行政がフルセットで
何でも行うには、
人的・財源的に限界



課題発見から解決までを、
まずは小規模単位のコミュニティで行う
と住民が再認識する必要がある



コミュニティ力とは・・・



篠山市の現状について



(地域住民)

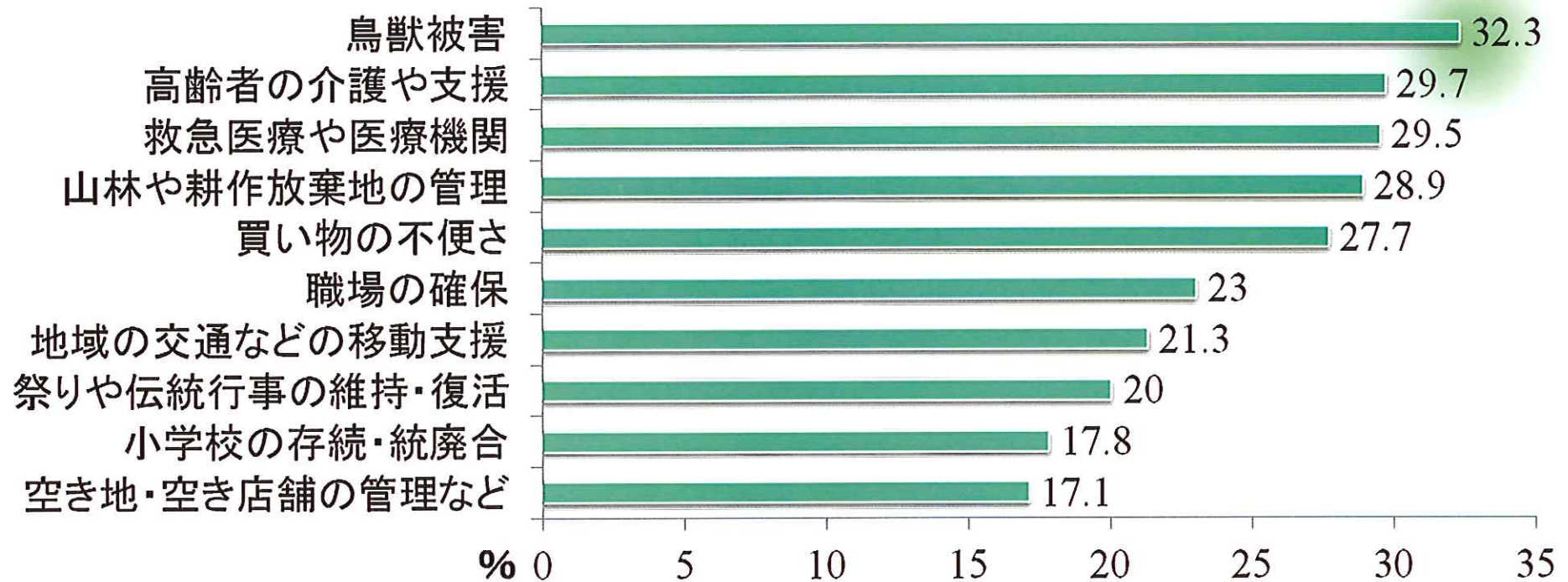
地域課題は
何かな？

篠山市の財政状況
から自治体中心で
地域課題を解決
できるのか？



篠山市の現状・課題①

住民の考える地域課題



出典：第2次篠山市総合計画

少子化・高齢化の影響を受け、様々な課題が出ている

篠山市の現状



合併特例債

2012年3月時点

201億4000万円

1999年 合併

丹南町

今田町

2011年

実質公債費比率
22.7%

ワースト

県内
全国

1位
7位

篠山市の財政悪化の影響により



～さぎそうホール～

- * 演芸場・劇場・ホール・寄席
- * 合併から半年後に開館

- * 2007年度の利用が67日
(学校・市役所を除くと9日)

- * 収入: 22万4000円
- * 経費: 770万円

**開館から
わずか10年
で閉館**

水道料金
値上げ



チルドレンズ
ミュージアム
閉館




長寿祝金の
支給を廃止



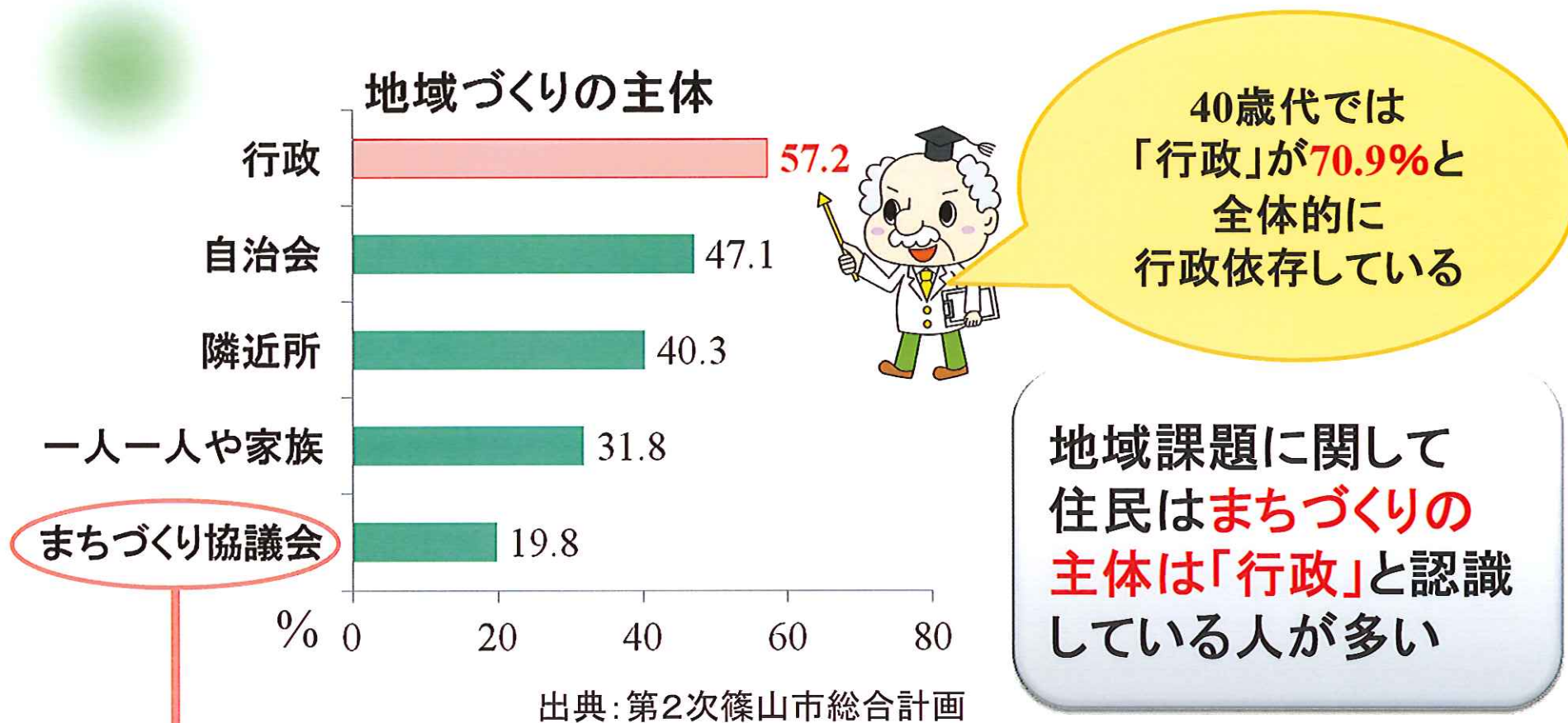


様々な地域課題



篠山の行政主導
での解決は困難

篠山市のコミュニティカの分析①



このまちづくり協議会とは、市から新しい公共を担う地域型組織として全地区に設置を促し、平成22年に全ての地区に設置したものであるが、上記のように住民には主体としてあまり認知されていない

自治組織の実態

人口
3,614人

高齢化率
34.7%



まちづくり協議会は活動を行っているが規模が小さく、現在のところ課題解決には直接つながっていない

地域課題

雲部

小学校の利活用問題・都市と農村の交流も含めた定住促進

日置


各種団体への若い世代の協働参加

後川

小学校の利活用問題・高齢者が安心して暮らせる地域づくり

小括

篠山市の地域課題に対し
行政主導(予算措置等)で
解決することは難しい



行政提案により設立された
まちづくり協議会は
うまく機能していない

**このままでは地域課題を解決することができず、
課題が複雑化・増加してしまう**

**住民一人ひとりが解決する意思をもち、
住民自治を行っていかなければならない**

解決策

小規模コミュニティが機能しているネットワークの構築

住民一人ひとりが帰属意識、相互扶助の意識を持ち、積極的に課題解決に取り組む仕掛けの構築



城東地区の場合

- ・若者の地域活動への参加
- ・小学校の利活用問題など

自治組織が機能しているネットワークの構築

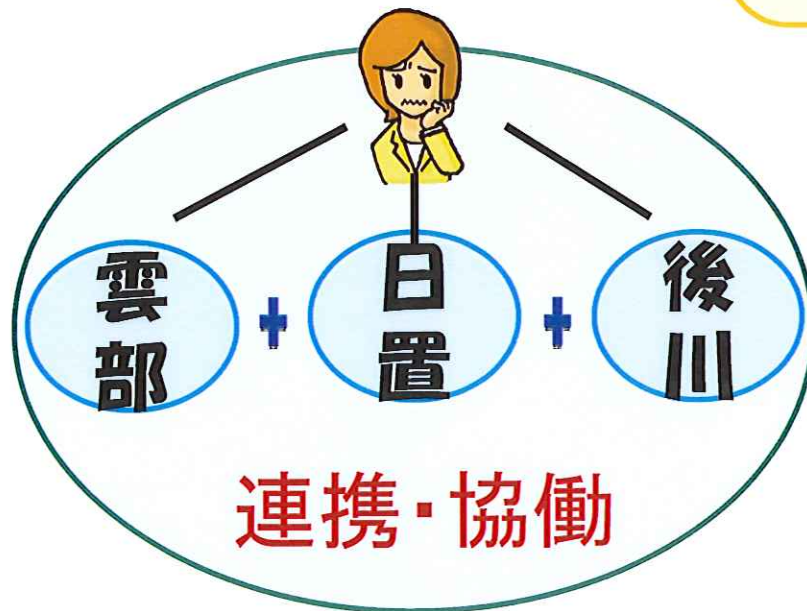
現状

各まちづくり協議会の活動は一部の人で少しずつすすめられている



廃校の利活用問題
に対する
ワークショップや
イベントの開催

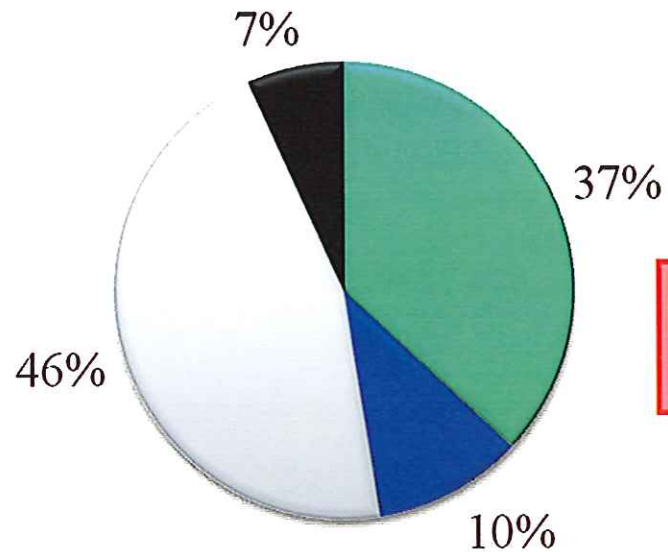
↓ 今後は・・・



住民の参加・協働を
促していく必要がある

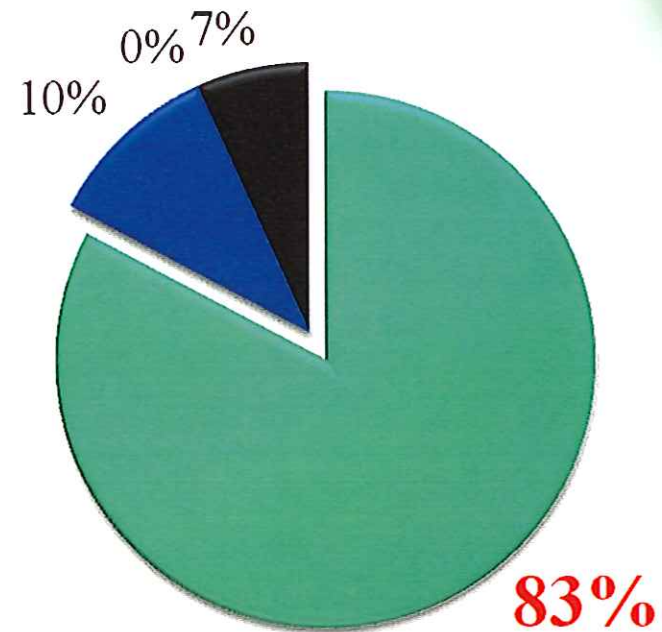
地域活動への参加意欲

- 参加したい
- 参加したくない
- どちらともない
- 不明



地域活動への参加意欲

- 参加したい
- 参加したくない
- 不明



出典：第2次篠山市総合計画策定のためのアンケート調査

住民参加の促進・協働の事例

城東地区と人口規模、高齢化率が類似している
京都府にある南山城村を事例に取り上げる

人口4,000人、
高齢化率35%の
小さな村

高齢化率(45%)
が最も高い
高尾地区に入り、
活性化の為に日々
活動している

現在で南山城村
に入って
3年目になる

高尾地区(南山城村)での活動

当初

- ▶ 地域課題を解決する為の集まりを自治会館で開催
- ▶ ビラを全戸配布し、周知

しかし

住民が全く集まらず、
地域課題に対して関心が
ないと感じた

原因

双方の信頼の
構築や醸成が
出来ていなかった

日常の繋がりから
積み上げていく方向に転換

現在

- 地区の行事に積極的に参加
- 自身が地区で主催するイベントでも住民のサポート・協力を得て開催
- 活動の中で地域の主役になりそうな人を探す

活動を通して



要因

- インセンティブを明確にする
- 参加者の出入りを自由にする
- 自由に意見を出せる環境作り



現在は地区の村民と1ヶ月に一度地域の課題について廃校を利用しながら話し合いを行っている

村民の意見



- ・学生が地域の行事に参加してくれるようになって、行事が華やかになった。
- ・地域活動に参加する村民が増えた。
- ・学生と話す機会を頻繁に持つようになり、村の課題の解決に向けた活動が始まったのではないか。
- ・若い子と話すのが楽しい。



- ・学生の活動や考え方は村民と大きく違うのではないか？
- ・永続的に続けてくれるか心配

ヨソ者はインパクトを与える存在として
大きな役割を担っている

南山城村の事例から

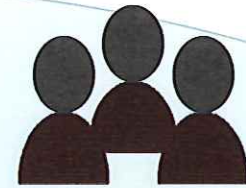
場

- 1.参加するインセンティブを明確にする
- 2.参加しやすい環境を整える(出入りが自由 等)
- 3.意見を出しやすい環境を整える(専門的な用語を使わない 等)
- 4.互いに学び合い、サポートし合う(人材の育成が行われる)

相互補完

相互学習

参加の促進が行われる



ヨソ者



地域住民

実際に城東地区でも

・廃校の利活用が問題に

・ワークショップの開催

ヨソ者を巻き込む
ことにより、
現状から
進展することが可能

・イベントから進んでいない

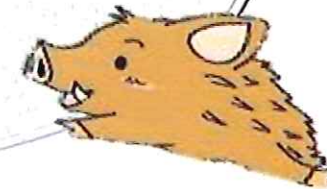
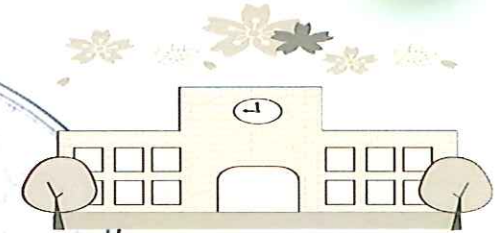
どのようにしてヨソ者を取り入れるのか

ヨソ者に、地域に対して興味・関心を持ってもらえるような仕組み作りが必要

様々な年代の人
を呼び込む



他地域の自治組織等と
連携し、災害時に片方が
被災した際の一時的な
避難場所として
旧校舎を提供



平時の際には互いの
地区の祭りに招待

交流

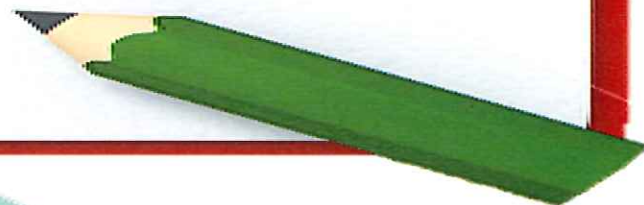


学生の参加を 呼びかける



政策など普段研究している
内容の実践の場として利用

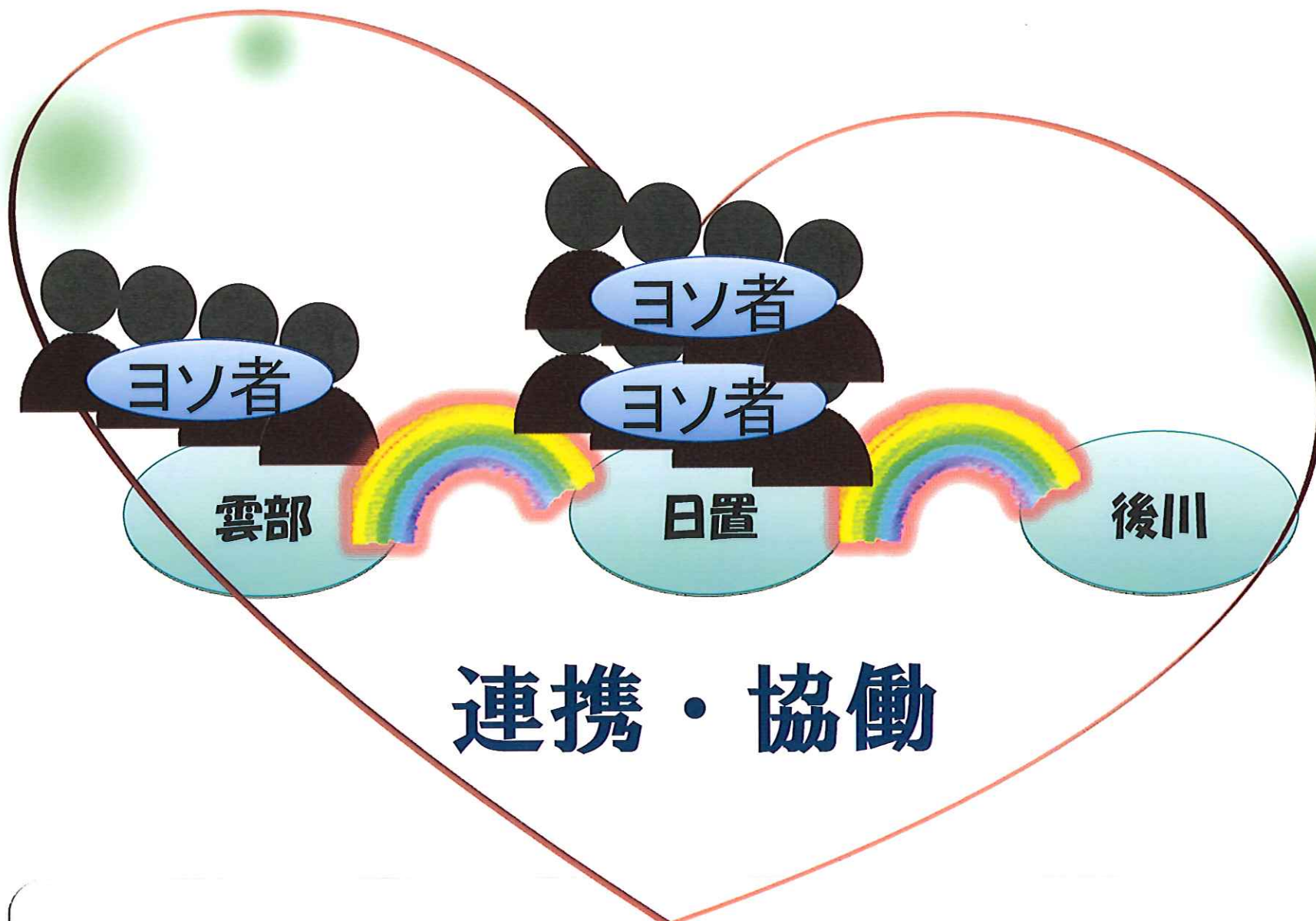
学生は普段の研究を実践でき、
地域は若いヨソ者の意見を聞ける
機会になる



このように興味を
持った人に対し
城東地区で受け入れる
仕組みを作って
おかなければならない

旧小学校の
一室を利用し、
宿泊できる場
の設置

高齢者の農作業の
手伝いなどを
してもらいながら
地域課題を解決する場に
参加・協働を促していく



各まちづくり協議会に住民・ヨソ者の参加・協働が
促進され、コミュニティ力が向上

まとめ

住民・ヨソ者が協働で地域課題に取り組むことで、コミュニティ力が向上し、地域課題が解決へ向けて進みだすのではないか

するという意識を持つ